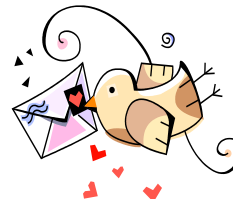


安全就業ニュース

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会

★ 安全リレー ★



高知県における安全・適正就業の取組み

高知県シルバー人材センター連合会の概要（平成29年度実績）

・センター数	20 団体（国庫補助団体 17 団体、補助対象外 3 団体）
・会員数	4,668 人
・狙入会率	1.6%
・就業実人員	3,930 人（請負・委任 3,542 名、派遣 388 名）
・就業延人員	340,611 人（請負・委任 307,858 人、派遣 32,753 人）
・就業率	75.9%（請負・委任）、68.6%（派遣）
・受注件数	33,236 件（請負・委任 32,796 件、派遣 440 人）
・契約金額	1,670,765 千円（請負・委任 1,506,031 千円、派遣 164,734 千円）

1. 過年度傷害事故発生状況及び物損事故発生状況

◇傷害事故発生状況の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
事故件数	59	48	50	60	69	53	61
（就業途上の事故件数）	(2)	(6)	(11)	(10)	(6)	(5)	(8)
重篤事故	1	2	1	1	1	2	0
1ヶ月以上6ヶ月未満の入院事故	7	4	2	6	7	6	10

主な事故の型別

	H26	H27	H28	H29	H30
刺され、噛まれ	12	13	17	18	11
墜落・転落	2	4	13	5	14
転倒	7	14	13	12	10
交通事故	12	10	6	5	6
切れ・こすれ	7	9	7	4	6
飛来・落下	3	3	4	2	2
動作の反動・無理な動作	1	2	5	0	2

平成 30 年度の傷害事故件数は 61 件で、前年度と比較して 8 件の増加となった。重篤事故は、平成 24 年度から 6 年連続で発生していたが、平成 30 年度においては重篤事故の発生はなかった。しかし、1 ヶ月以上 6 ヶ月未満の入院事故は 10 件と件数は過去最多となった。その原因は、10 件の内 5 件が「墜落・転落」、3 件が「交通事故」となっており、平成 29 年度までは交通事故による件数が毎年 1～2 件で推移していたが、平成 30 年度は増加した。

3 年連続で重篤事故が発生していた平成 27 年度から事務局体制を整え、安全就業対策に取り組んでいるが、その後も重篤事故の発生が続き、現在のところ結果につながっているとは言い難いが、引き続き啓発活動に取り組んでいきたい。

◇損害賠償事故発生状況

年度	H26	H27	H28	H29
事故発生件数	36 件	31 件	29 件	45 件
損害賠償保険金額	1, 687, 021 円	1, 497, 607 円	1, 218, 287 円	3, 009, 415 円

主な事故の型別	H26	H27	H28	H29
飛散させた物で損傷	14	12	13	20
落下させて損傷	5	0	3	6
倒したり、ぶつけて損傷	7	5	2	2
器具・用具を接触させて損傷	9	11	10	13
用具の誤作動	1	1	0	2
就業中の損壊	0	2	0	2
汚損、変質	0	0	1	0

損害賠償事故件数は、平成 26 年から徐々に減少していたが、平成 29 年度は前年度より 16 件増加し、保険金額も前年度の金額より大きく増加した。

事故の型別で見ると、毎年「飛散させた物で損傷」、「器具・用具を接触させて損傷」での事故が多く、平成 29 年度においては全体の 7 割を占めている。この結果から、これまで以上に防護ネットを適切に使用する。また、就業場所の状況を事前にチェックする必要があるのではないかと考えている。

2. 安全就業への取り組み

(1) 安全委員会

委員会は、連合会及びシルバー人材センターの事務局長で構成し、年 1～2 回開催している。事故報告をもとに事故の状況、原因などをまとめ、事故内容の情報共有を図っている。

また、各センターでの安全確保のための取り組みの情報交換も行っている。

特に、事故の防止には、安全用具や服装等を確認する就業前の安全チェックが有効ではないかと考え、平成 27 年度に他県の先進事例を情報提供し、安全点検記録表の導入を促した。

現在は一部のセンターで独自の安全点検記録表を作成し、会員から報告させるなどの対策を講じているが、他のセンターにも波及させていくことが課題となっている。

(2) 安全就業パトロール

シルバー人材センターの安全パトロールに連合会職員が同行し、安全就業の確認と事故防止について注意を促している。

連合会事務局の体制が脆弱であったため、安全パトロールへの同行は一時中断していたが、平成 27 年度から再開した。

平成 30 年度は、13 センターのパトロールに同行し、安全委員及びセンターの職員とともに、主に草刈作業や剪定作業の就業場所での危険箇所や改善箇所を洗い出し、会員が安全に就業できるように注意喚起を行った。

また、パトロールの回数が少ないセンターには、毎月の実施を促しており、安全委員会で実施できない場合は、事務局職員が現場に行く際に安全就業チェックリストによる確認を行い、記録を残すよう助言している。



(3) 安全就業優良センター表彰

各シルバー人材センターが傷害事故の防止に積極的に取り組むことを期待して、連合会の総会において、安全就業への取り組みが優れており、事故が極めて少なかったセンターを表彰しているが、近年、事故の発生が多くなっており、過去 5 年のうち 2 年は表彰の対象となるセンターがないという状況である。

(4) 安全就業研修会委託事業

高知県は東西に長く、各シルバー人材センターの多くの会員が 1 か所に集まって研修することが難しいことから、会員が参加しやすい研修会とするため、安全就業研修の実施を希望するセンターに委託し、センター独自のテーマを設定し行っている。

平成 30 年度は 5 センターで安全研修を実施した。研修の内容は、従来の「剪定作業安全研修」や「安全運転研修」だけでなく、南海トラフ地震を見据え、自然災害への備えや発生時の対処方法など、防災に関する研修も行っている。



「南海トラフ地震から命を守る研修会」



「剪定作業安全研修」

(5) リーフレット等の配布

シルバー人材センターの会員の安全意識の高揚を図るため、平成 29 年度は「安全ハンドブック」を、平成 30 年度は「安全就業のためのチェックポイント」を購入し、センターの会員に配布した。

高知県シルバー人材センター連合会様からの報告でした。
詳細にわたるご報告、誠にありがとうございました。

★ 令和元年 安全衛生カレンダー ★

5月

- 水防月間（注1）
- 春の全国交通安全運動（11日～20日）
- 看護週間（12日～18日）
- ごみ減量・リサイクル推進週間（30日～6月5日）
- 禁煙週間（31日～6月6日）

6月

- 全国安全週間準備期間（1日～30日）
- 土砂災害防止月間 ●食育月間
- 外国人労働者問題啓発月間
- 農薬危害防止運動（1日～8月31日）
- 危険物安全週間（2日～8日）
- 歯と口の健康週間（4日～10日）
- 火薬類危険予防週間（10日～16日）

7月

- 全国安全週間（1日～7日） ●熱中症予防強化月間
- 国民安全の日（1日） ●全国鉱山保安週間（1日～7日）

8月

- 電気使用安全月間 ●食品衛生月間
- 防災週間（30日～9月5日） ●建築物防災週間（30日～9月5日）

9月

- 全国労働衛生週間準備期間（1日～30日）
- 職場の健康診断実施強化月間
- 食生活改善普及啓発月間
- 心とからだの健康推進運動（1日～30日）
- 全国作業環境測定・評価推進運動（1日～30日）
- 自動車点検整備推進運動強化月間（1日～10月31日）（注2）
- 防災の日（1日） ●救急の日（9日）
- 自殺予防月間（10日～16日） ●秋の全国交通安全運動（21日～30日）
- 環境衛生週間（24日～10月1日）

10月

- 全国労働衛生週間（1日～7日）
- 第78回全国産業安全衛生大会【京都】（23日～25日）
- 体力づくり強調月間 ●仕事と家族を考える月間
- 目の愛護デー（10日） ●薬と健康の週間（17日～23日）
- 高圧ガス保安活動促進週間（23日～29日）

11月

- 特定自主検査強化月間 ●過労死等防止啓発月間
- 製品安全総点検月間
- 秋季全国火災予防運動（9日～15日）
- 医療安全推進週間（24日～30日）

12月

- 2019年度安全衛生教育促進運動（1日～翌年1月15日）
- 2019年度年末年始無災害運動（15日～翌年1月15日）
- 年末年始の輸送等に関する安全総点検（10日～翌年1月10日）

※（注1）北海道は6月、（注2）北海道は7～10月

（出所 中央労働災害防止協会「かべしんぶん」より抜粋）

毎年度、全シ協から連合本部及びセンターあてに送付しています「シルバー人材センター事業 安全・適正就業強化月間について」ですが、本年度につきましては、新元号施行後の5月以降に送付いたしますので、ご了承いただきますよう、よろしくお願いいたします。

平成30年度3月事故速報

(1) 重篤事故

3月は、18件の重篤事故報告がありました。

本年度（平成30年度）は53件と過去5年間で最も事故件数が多かった昨年度（平成29年度）の46件に比して7件の増加と大幅に増加しています。

また、就業中・就業途上別にみると、就業中では昨年度の32件に比して37件と5件の増加、また就業途上においては、昨年度の14件と比して16件と2件の増加となっています。

なお、重篤事故53件を事故発生時点でみると、平成30年度に発生した事故は40件（就業中27件、就業途上13件）で、平成29年度以前に発生した事故は13件（就業中10件、就業途上3件）となっています。

3月報告分までの累計

平成30年度累計	就業中・ 就業途上	件数	内 訳				平成29年度累計					
			事故の程度		性別		計	事故の程度		性別		
			死亡	入院	男性	女性		死亡	入院	男性	女性	
就業中	37 (12)	29 (9)	8 (3)	33 (10)	4 (2)	就業中	32	22	10	32	0	
就業途上	16 (6)	14 (6)	2 (0)	12 (4)	4 (2)	就業途上	14	11	3	10	4	
計	53 (18)	43 (15)	10 (3)	45 (14)	8 (4)	計	46	33	13	42	4	

↳ 対前年度比 115.2%

※ () 内は3月報告分

3月報告分内容

No.	性別等	仕事内容等	事故の状況	安全 帽	安全 帯	交通 手段
36	男 84歳	就業中 (死亡)	会員2名で西側と北側に分かれてヒバの木の剪定を行っていたが、当該会員が足を滑らせ転倒し、病院に救急搬送されたが当日死亡した。当会員は北側から作業するため、2段目に登って作業をしていたが、1段目に足があると勘違いをして、降りる時に足を滑らせたのではないかと別の会員から報告があった。	×	—	—
37	男 75歳	就業中 (死亡)	会員4名により雑木の枝を落とす作業をしていたが、当該会員が3mの三脚の上から3段目でチェーンソーを使い、雑木の枝を落とす作業を行っていたところ、切断途中で枝が折れ、その枝が三脚側（当該会員側）に倒れてきて身をかかわした際、三脚から転落した。救急搬送されたが3日後に死亡した。	○	×	—
38	男 76歳	就業途上 (死亡)	昼頃、信号機のない市道交差点で会員が運転する原付自転車と2tトラックと激突し、救急搬送されたが約1時間半後に死亡した。	—	—	バイク

39	女 82歳	就業途上 (死亡)	就業後、自転車で帰宅途中、交差点を横断していた会員が、走行してきた自動車と激突し、救急搬送されたが当日死亡した。	—	—	自転車
40	男 78歳	就業中 (死亡)	公園に面した車道と歩道の境（縁石）のあたりに飛来した落ち葉、砂等を車道に出て清掃していたところ、走行してきた軽自動車に跳ねられ、当日死亡した。 事故後、運転手は救命措置もとらず、そのまま逃走した（飲酒運転）。	—	—	—
41	男 81歳	就業中 (死亡)	午前9時頃、個人宅のテラス支柱交換作業の打ち合わせを発注者と打ち合わせ後、交換する支柱の脇に脚立を立て作業を開始しようとしたところ、前々日の台風の影響で芝生が不安定であったため、脚立に登り始めて2、3段目のところでバランスを崩し転落し、また、その時に挿んでいた脚立が倒れ下敷きになった。救急搬送されたが、約2週間後に死亡した。安全帽不使用、不安定な場所に脚立を立て敷板を使わず、また一人作業であったため起こった事故であると思われる。	×	—	—
42	女 82歳	就業中 (死亡)	会員10名により台風により道路に散乱していた落ち葉等の片付けを行なったが、停車していたセンター所有の軽自動車の左前方で、当該会員が落ち葉と枯枝をしゃがんで選別していたところ、軽自動車を前に動かそうと、他の会員が後方から運転席に乗り込み発進させた。車の前方にいた当該会員はしゃがみこんでおり、運転した会員の死角となっていたため見えず、車の下に巻き込まれ、救急搬送されたが翌日死亡した。	○	—	—
43	男 78歳	就業途上 (死亡)	就業を終えて、自転車で就業先の施設内から公道に出ようとした際に、同施設に入るため公道から右折して来た自動車と激突し、転倒して救急搬送されたが翌日死亡した。	—	—	自転車
44	男 82歳	就業中 (入院)	精米機内のこぬか回収作業を行っていたが、こぬかを入れる袋が不足していることに気付き、自宅に置いていた袋を取りに行った。車を降りて玄関に向かう途中で自宅前の石に滑り転倒し後頭部を打った。入院後6か月を経過したが、現在入院中である。	—	—	徒歩
45	男 68歳	就業中 (入院)	会員8名により、りんご収穫作業中に、段差のある場所へ三脚を設置して、りんご採りを始めたが、三脚が開いてしまい、当該会員がバランスを崩し三脚から転落した。その際に、後ろ向きで頭から落ちたので、頸椎を強く打ち、病院に救急搬送された。入院後6ヶ月経過したが、現在も入院中である。 なお、安全帽の着用及び安全帯の着用はしておらず、三脚の点検についてもしていなかった。	×	×	—

46	男 74 歳	就業中 (死亡)	<p>会員1名で高さ6～7mのタイサン木の剪定作業中に転落し、病院に救急搬送されたが、9日後に死亡した。</p> <p>発見時、ヘルメットの着用及び安全帯は体に装着はしていた。脚立も倒れておらず、そのままの状態であったことから、樹木に登っていたものと思われる。</p> <p>事故が発生した木は、午後から会員2名で作業する予定であったが、死亡した会員が一人で作業を先行して開始していた。もう一人の会員は事故が発生した木が見えない位置で作業をしていたため、事故が発生したことに気づかなかったが、次の作業に入るため声を掛けにいったところ、倒れている会員を発見した。</p>	○	○	—
47	女 73 歳	就業中 (入院)	<p>就業準備のため、2階のロッカー室に向かう途中で階段から足を滑らして転倒、落下し、救急搬送された。入院後6ヶ月経過したが、その後退院した。</p>	—	—	—
48	男 69 歳	就業中 (死亡)	<p>会員2名で個人宅の庭木の剪定作業に従事していた。死亡した会員は、キンモクセイ(高さ2.5m)の剪定作業を地面から電気バリカンで行なっていたが、何らかの理由でバランスを崩したようで、植木から約1m離れたところのブロック塀の外のアスファルト舗装の町道に転落した。塀は庭側の高さが約60cmで、道路側は塀の上端から道路までの高さが約4.5mあり、ヘルメットを着用していたが、後頭部を強打しており、路上で倒れているところを巡回中のパトカーに発見され、救急搬送されたが、当日死亡した。</p>	○	—	—
49	男 77 歳	就業中 (死亡)	<p>河岸緑地での除草作業中、緑地帯にある自転車が邪魔になるので、これを動かしていた際、誤って自転車を横腹に当ててしまった。その後、気分が悪くなって救急搬送され入院したが、20日後に死亡した。なお、当該会員は従来から肝臓がんの治療を受けていた。</p>	—	—	—
50	男 72 歳	就業途上 (死亡)	<p>就業先から車で帰宅途中、町道に石が落ちていたため、車から降りて取り除こうとしたところ、落石が頭を直撃したと思われる。</p>	—	—	徒歩
51	男 78 歳	就業途上 (死亡)	<p>会員が自宅からバイクで就業先に向かう途中、信号機のない交差点で軽自動車と激突し、救急車で緊急搬送されたが、当日死亡した。</p>	—	—	バイク
52	女 77 歳	就業途上 (死亡)	<p>会員が、自宅から就業先に車で移動中に信号機に激突し、救急搬送されたが当日死亡した(原因は不明)。</p>	—	—	自動車
53	男 63 歳	就業中 (死亡)	<p>会員2名により、台風により折れて樹上に残っていた枝を取り除こうと、軽トラックの荷台に脚立を置いて木に登った。一緒に作業をしていた会員は木に登ったところまでは確認していたが、他の作業中のため落ちた瞬間を目撃していないが、ポキッと木が折れる音がした後、ドスンと大きな鈍い音がしたので振り返ると、当該会員があおむけに倒れていた。その時点では意識もあり話もできたが、何が起こったのか理解できていない様子だった。ドクターヘリで救急搬送されたが、6日後に死亡した。</p>	×	×	—

(2) 1ヶ月～6ヶ月未満の入院及び後遺障害の事故

3月は、就業中の事故18件、就業途上の事故11件と、合計29件でありました。

本年度(平成30年度)は、昨年度の同月34件と比して5件の減少となっています。また、男女別では、男性は4件の増加となっているのに対して、女性は9件の減少となっています。

年度で比較してみると、昨年度の316件に対して、本年度は310件と6件の減少となっています。就業中・就業途上別にみると、就業中は18件の減少となっているのに対して、就業途上は12件の増加(男性5件・女性7件)となっています。男女別では、男性は4件の減少となっており、女性も2件の減少となっています。

平成30年度3月分

	仕事の内容	事故数(件)		うち男性(件)		うち女性(件)		平均年齢(歳)	
		3月	累計	3月	累計	3月	累計	3月	累計
就業中	植木・樹木の剪定等	13(9)	91(100)	12(9)	89(98)	1(0)	2(2)	72	74
	除草作業	2(1)	44(37)	2(1)	35(29)	0(0)	9(8)	74	75
	屋内・屋外清掃作業	0(7)	26(39)	0(1)	11(9)	0(6)	15(30)	-	72
	その他	3(8)	55(58)	3(8)	39(47)	0(0)	16(11)	73	75
	計	18(25)	216(234)	17(19)	174(183)	1(6)	42(51)	72	74
就業途上	徒歩	3(3)	27(24)	2(1)	8(9)	1(2)	19(15)	72	75
	自転車	6(1)	43(31)	5(0)	22(15)	1(1)	21(16)	73	75
	バイク	2(0)	16(20)	1(0)	5(9)	1(0)	11(11)	81	77
	自動車	0(5)	8(7)	0(1)	4(1)	0(4)	4(6)	-	75
	計	11(9)	94(82)	8(2)	39(34)	3(7)	55(48)	74	75
合計		29(34)	310(316)	25(21)	213(217)	4(13)	97(99)	73	75

()は平成29年度同月、累計は本年度(平成30年度)の発生件数

- ・「女性会員の6ヶ月(180日)以上の入院報告」が1件あったので、重篤事故(3月報告分)として計上し、その分を「屋内・屋外清掃作業(就業中)」の累計件数から差引いた。

「シルバー人材センター団体傷害保険に係る事故件数等報告書」については、事故の有無にかかわらず毎月8日までに必ず提出願います。
(平成30年4月24日付 全シ協 事務局長通達参照)

編集後記

4月も中旬になっての大寒波で、開花した桜に雪が積もったところもあるようですが北海道や北東北ではこれからお花見という所も多いことと思います。昨年度末までに死亡事故報告は出ているもののシルバー保険が適用された旨の報告がなかった事故を対象に確認作業を行った結果、過去5年で最多であった昨年度の重篤事故件数(46件)を上回る結果となってしまいました。事故の多くは屋外作業で発生し、安全帽さえ被っていれば…というケースも多発しました。昨年も申し上げましたが、シルバー事業において最も重要なことは、安全な就業環境の中で会員のみなさまが明るく楽しく、安心して働けることです。事故は一瞬の気の緩みから起こります。せつかくの楽しい就業の場を、最も大切な命を、事故により失うことがないよう会員のみなさま一人ひとりが日々気をつけて、長く生きがいをもって働き続けることができますよう、このニュースが一助になれば幸いです。今年度もどうぞよろしくお願いたします。(松山)

昨年4月から安全就業担当となり、今月で1年経ちました。しかしながら重篤事故件数については、過去5年間で最多であった昨年度の件数(46件)を大幅に上回る53件となってしまいました。平成25年度から41件、42件(26年度)、29件(27年度)、28件(28年度)、そして昨年度(29年度)が46件でしたので、今年度の重篤事故件数が異常に多いことがお分かりいただけるとと思います。元号が来月から「令和」に変わりますが、令和では事故件数を1件でも少なくしていくよう、皆様と一緒に努力していきたいと思っております。(笹野)

事故防止、急ぐな、あせるな、気を抜くな

<頒布物のご案内> 新規会員さんへの研修に活用ください!

全シ協では、シルバー人材センター事業を円滑に運営・推進していただく一助として、手引書、冊子などの頒布物を発行しています。

事故に学ぶ交通安全のポイント「改訂版」

交通事故の死亡者は年々減少傾向にある中、65歳以上の高齢者が占める割合は年々高くなっています。シルバー人材センター会員の皆様においても就業途上において歩行中・自転車乗車中の事故が多く発生しています。このため、事故に注意していただき、安全な就業をしていただくため改訂版を発行しました。是非、会員の皆様に対する研修会・講習会等のテキストとして活用ください。



頒布価格 216 円 A4 判
(税込・送料実費)

【改訂の内容】

- 1 現行のB5版/16頁からA4版/20頁とし、見やすく、分かりやすく、内容の充実を図りました。
- 2 警察庁交通局の「平成27年中の交通事故の発生状況」から、特に、高齢者の事故が多い内容や原因について注意喚起を行う事項を追加しました。
- 3 シルバー人材センターで発生した「就業途上に起きた交通事故」の状況や事故件数及びこれに伴う再発防止のポイントを「イラスト、事例」により掲載しました。
また、ヒヤリ・ハットの事例についても、「イラスト、事例」により掲載しています。
- 4 自転車の危険運転について、道路交通法の改正が行われ、この改正内容等について、「イラスト」等により解説を行い、追加しました。

【お問い合わせ先 全シ協企画情報課 TEL 03-5665-8013】